

企業景況調査報告書

(令和6年1～3月期)

< 目次 >

質問1	調査の概要・結果概要	1
質問2	直面している経営上の問題点	2
質問3	従業員教育について	3
質問4	意見等自由記載欄	4
DI	集計結果・分布	5
調査票	様式	6

倉吉商工会議所

倉吉市明治町 1037-11

TEL 0858-22-2191

FAX 0858-22-2193

Email cci3103@kurayoshi-cci.or.jp

倉吉商工会議所企業景況調査報告書（2024年1～3月）

調査対象企業

倉吉市内の商工会議所会員企業 100社

（建設業21社、製造業19社、卸売業11社、小売業21社、サービス業22社、その他6社）

調査方法

各事業所にFAXにて返信依頼。

調査時期

令和6年4月上旬～令和6年4月中旬

回収状況

90社（回収率90%） ※前回（10～12月）91社

（建設業19社、製造業19社、卸売業10社、小売業17社、サービス業19社、その他6社）

業種別の業況DIは、今期は5業種で上昇するも、来期は若干下降する見通し

<今期の状況>（5ページ表参照）

今期の全業種の業況DIは、前年同期比で前期の▲13.4から6.5ポイント上昇し、▲6.9となった。業種別に見ると、それぞれ建設業は▲10.6（前期9.5）、製造業は▲31.6（前期▲33.3）、卸売業は11.1（前期0）、小売業は12.5（前期▲14.3）、サービス業は0（前期▲14.2）、その他の業種は▲16.6（前期▲50.0）で、5業種で上昇、1業種で下降となった。

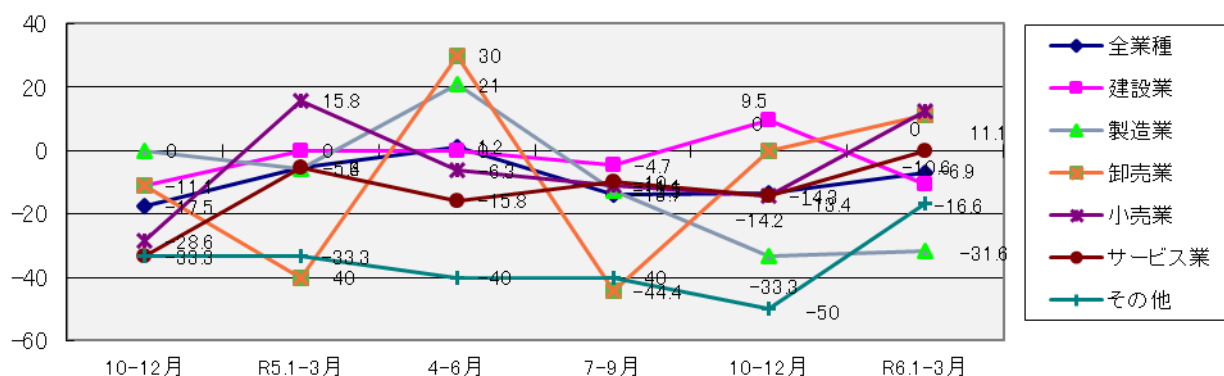
<来期の見通し>（5ページ表参照）

来期の見通し（2024年1～3月）では、全業種のDI値は前期の▲14.8から1.3ポイント下降し、▲16.1となった。業種別に見ると小売業は▲25.0（前期0）、サービス業は▲27.8（前期▲10.0）と2業種で下降する見通しとなった。一方で、建設業は10.5（前期0）、製造業は▲36.8（前期▲38.8）、卸売業は0（前期▲10.0）、その他の業種は0（前期▲33.3）と上昇する見込みである。

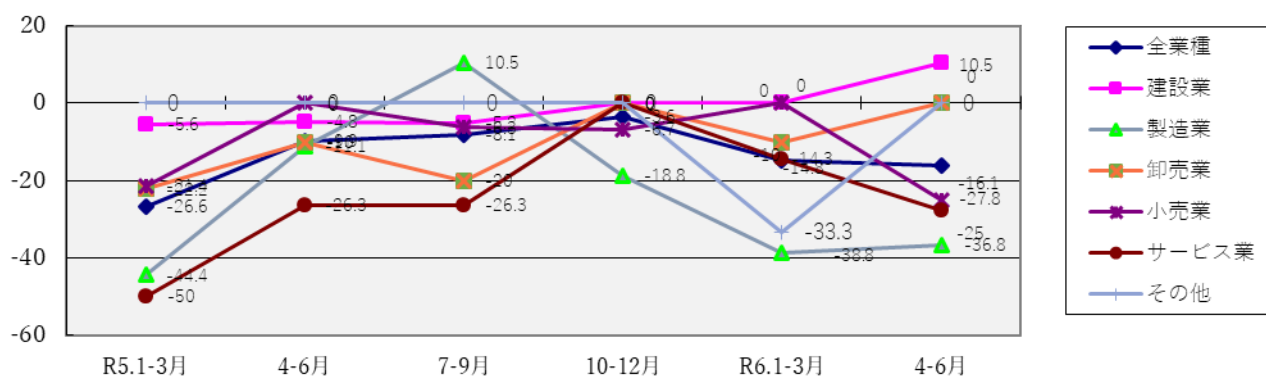
経営上における課題としては、全業種の合計で「原材料・仕入価格上昇」が前回に引き続き1位となった。前回3位の「人手不足」が2位に挙がり、「売上・受注減少」が初めて上位に挙げられた。サービス業でも、前回2位に挙げられた「人手不足」が1位になるなど、全体的に人手不足に悩みを抱えている事業所が多いことがわかる。また、「消費・需要の停滞」を上位に挙げる事業所も目立っている。

<業況判断DIの推移> ※今期のDI値集計結果についてはP5をご参照下さい。

(1) 今期の状況 <業種別>



(2) 来期の見通し<業種別>



質問2 直面している経営上の問題点（上位3点を回答）

01 競争激化 02 消費・需要の停滞 03 売上・受注減少 04 売上・受注単価低下
 05 原材料・仕入価格上昇 06 原材料・在庫不足 07 原材料・在庫過剰
 08 店舗・生産設備不足・老朽化 09 店舗・生産設備過剰 10 経費の増加 11 人手不足
 12 人手過剰 13 利益率低下 14 代金回収難 15 資金繰り難 16 新分野進出
 17 その他:具体的に()

〔上位項目〕

※（ ）内は件数

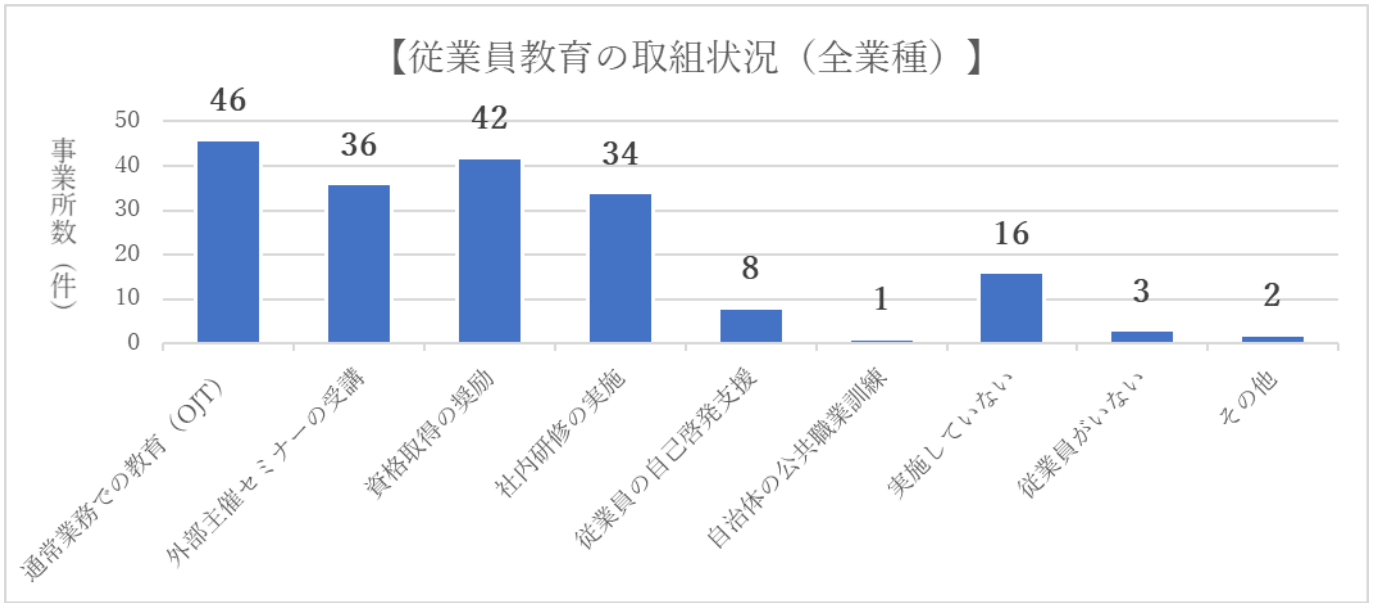
分類		1 位	2 位	3 位
全業種	当 期	原材料・仕入価格上昇 (49)	人手不足 (37)	売上・受注減少 (35)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (50)	経費の増加 (37)	人手不足 (35)
建設業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (11)	人手不足 (10)	売上・受注減少 (9)
	前 期	人手不足 (13)	原材料・仕入価格上昇 (12)	経費の増加 (7) 利益率低下 (7)
製造業	当 期	売上・受注減少 (13)	原材料・仕入価格上昇 (9)	人手不足 (7)
	前 期	売上・受注減少 (14)	原材料・仕入価格上昇 (11)	消費・需要の停滞 (4) 店舗・生産設備不足・老朽化 (4) 経費の増加 (4) 人手不足 (4)
卸売業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (8)	競争激化 (6)	売上・受注減少 (4)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (7)	競争激化 (5) 消費・需要の停滞 (5) 売上・受注減少 (5)	人手不足 (4)
小売業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (10)	消費・需要の停滞 (7)	売上・受注減少 (5)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (8)	経費の増加 (7)	消費・需要の停滞 (4) 利益率低下 (4)
サービス業	当 期	人手不足 (9)	原材料・仕入価格上昇 (8) 店舗・生産設備不足・老朽化 (8)	競争激化 (6)
	前 期	経費の増加 (11)	原材料・仕入価格上昇 (9) 人手不足 (9)	売上・受注減少 (8)
その他	当 期	経費の増加 (5)	原材料・仕入価格上昇 (3) 人手不足 (3)	競争激化 (2) 売上・受注減少 (2) 利益率低下 (3)
	前 期	経費の増加 (5)	原材料・仕入価格上昇 (3) 人手不足 (3)	競争激化 (2)

17 その他

- ・設備修繕費
- ・価格転嫁
- ・新卒・中途人材確保
- ・従事者の高齢化

質問3 従業員教育について

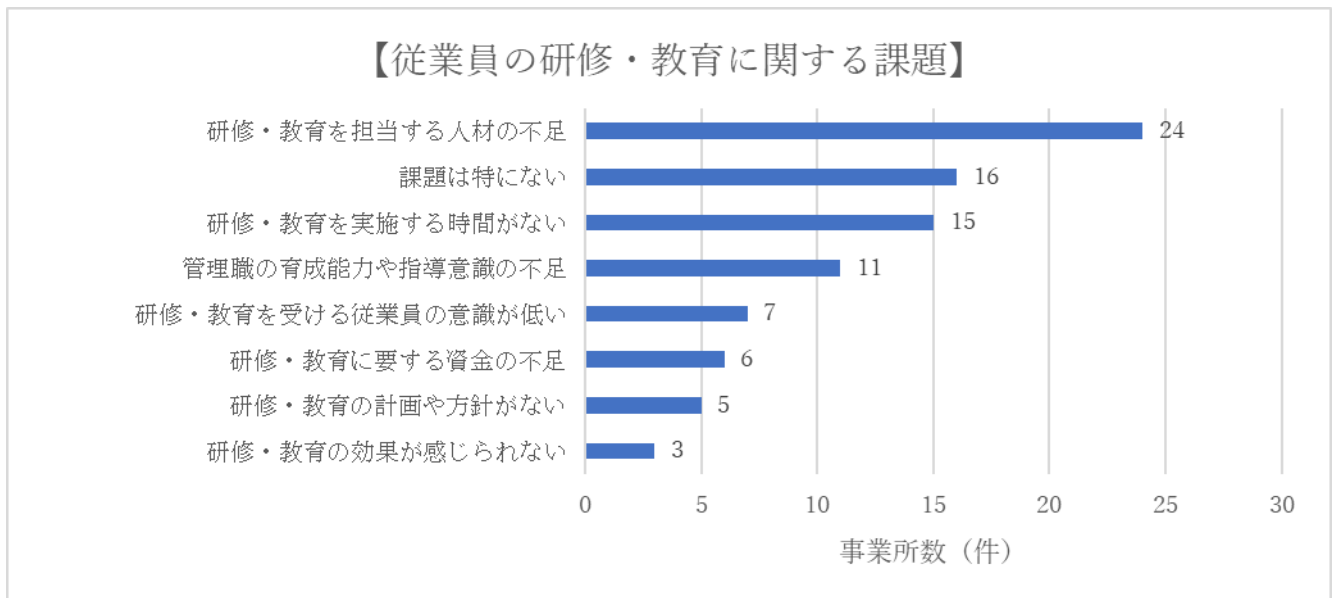
OJTや資格取得を中心とした従業員教育を実施している事業所が多い



人口減少による働き手不足が深刻化しており、当所管内事業所でも、人手不足を課題として挙げる事業所が増えている。現在の人員で効率良く業務を行うために、従業員のスキルアップに取り組む事業所も多い。

全業種の従業員教育の取組状況（上図）について、「通常業務での教育 (OJT)」、「資格取得の奨励」を行っている事業所が最も多い結果となった。次いで「外部主催セミナーの受講」や「社内研修の実施」なども多く、従業員教育を実施している事業所の大半は、複数の方法で研修や教育を実施していることがわかる。

業種別に見ると、特に製造業と小売業では「社内研修の実施」に重きを置いている事業所が多いことが見受けられた。また、資格の有無で入札等に影響が出てくる建設業では「資格取得の奨励」が「通常業務での教育 (OJT)」を上回る結果となった。



従業員の研修・教育に関する課題（上図）を見ると、「課題は特にない」と回答した事業所もあったものの、「研修・教育を担当する人材の不足」と回答した事業所が最も多く、人材不足を肌で感じる結果となっている。また、人手不足により最低限の人数で業務を行っている事業所が多いため、従業員教育の時間がないという声も多かった。さらに、上記以外の理由として従業員が集まる時間が取れないなどといった勤務形態の違いによる課題なども挙げられていた。

質問4 現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望について

【建設業】

- ・人手不足が深刻です。若手がいらない、求人を出してもなかなかいない現状です。

【製造業】

- ・観光土産品の売上低迷。
- ・景況はとても悪いです、製品がダブつき、在庫が増えている状況です。全国的なので売り先自体がない状況です。
- ・材料等の値上げだけでなく、円安がきつい、中国製品の価格が高くなり、買いにくくなっている。

【卸売業】

- ・為替の安定、円高への誘導、物価の安定
- ・燃料、電気代高騰対策

【小売業】

- ・為替動向（円安基調など）。
- ・意欲のある従業員を外部の機関を通じて確保したいと思っています。

【サービス業】

- ・人件費が増えても販売価格はなかなか上げられない。米子・鳥取市など地域的に価格が上がってきていない。
- ・県内業者でも倉吉は倉吉の業者を使ってほしい。入札等で鳥取市・米子市に発注するのはやめてほしい。
- ・3月は観光旅館がにぎわっていましたが。一般飲食店は低迷していますが、歓送迎会等、多少にぎわいを取り戻しているようです。
- ・当社は、土木技術関連のサービス業ですが、中部地区の高校に土木（建設）専門の学科が無くなってしまっていますが、復活させていただきたいと思います。

近年景気が悪すぎると思います。全国的には、消費減税が必要であると思います。

倉吉地方のためには、工場誘致が無理なら、農家の優遇策が必要であると思います。例えば、昔のような生産者米価を上げる又は、農家の所得補償等によって、地方の消費を活性化させ人口の流出を防ぐのに有効ではないかと思えます。（かなり難しいと思いますが）

D I 集 計(前年同期比=2023年1~3月期、来期の見通し=2024年4~6月期)

【製造業・非製造業別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	0.0	-6.7	28.1	15.7	-12.2	-16.7
製造業	-31.5	-21.1	33.3	11.1	-36.9	-36.8
非製造業	8.4	-2.8	26.7	16.9	-5.7	-11.2

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.5	-4.5	4.6	0.0	-6.9	-2.3
製造業	-5.3	-21.1	5.3	0.0	-22.2	0.0
非製造業	-4.3	0.0	4.3	0.0	-2.9	-2.9

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-6.9	-16.1
製造業	-31.6	-36.8
非製造業	0.0	-10.2

【業種別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	0.0	-6.7	28.1	15.7	-12.2	-16.7
建設業	-21.0	10.5	5.3	5.3	-21.1	-10.6
製造業	-31.5	-21.1	33.3	11.1	-36.9	-36.8
卸売業	0.0	0.0	40.0	30.0	0.0	0.0
小売業	23.6	-5.9	35.3	11.8	11.8	-17.6
サービス業	31.6	-16.7	42.1	31.6	5.2	-21.1
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	16.6
非製造業	8.4	-2.8	26.7	16.9	-5.7	-11.2

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.5	-4.5	4.6	0.0	-6.9	-2.3
建設業	-10.5	5.2	0.0	0.0	15.8	5.2
製造業	-5.3	-21.1	5.3	0.0	-22.2	0.0
卸売業	0.0	10.0	0.0	-10.0	0.0	0.0
小売業	6.3	-6.3	0.0	-6.2	6.7	-13.3
サービス業	-10.5	-5.3	5.3	0.0	-10.5	0.0
その他	0.0	0.0	33.3	33.3	-66.7	-16.6
非製造業	-4.3	0.0	4.3	0.0	-2.9	-2.9

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-6.9	-16.1
建設業	-10.6	10.5
製造業	-31.6	-36.8
卸売業	11.1	0.0
小売業	12.5	-25.0
サービス業	0.0	-27.8
その他	-16.6	0.0
非製造業	0.0	-10.2

※DI値

売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表します。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。

したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するものです。DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

倉吉商工会議所企業景況調査票(2024年1~3月期)

調査元: 倉吉商工会議所 TEL:22-2191

FAX:22-2193

【質問1】前年同期と比較した今期(2024年1~3月)の状況と、今期と比較した来期(2024年4~6月)の見通しについて、最も近いものに○印をお付けください。

1) 売上高	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
	(来期の見通し)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
2) 売上単価	(前年同期比)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
	(来期の見通し)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
3) 収益状況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
4) 資金繰り	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
5) 借入難度	(前年同期比)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
	(来期の見通し)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
6) 雇用人員	現在の従業員数	人(うち正規雇用者 人)		
	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
7) 貴社の業況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化

【質問2】今期直面している経営上の問題点について、重要度の高い順に該当する番号を回答欄へご記入ください。

- | | |
|------------------|-------------|
| 01 競争激化 | 10 経費の増加 |
| 02 消費・需要の停滞 | 11 人手不足 |
| 03 売上・受注減少 | 12 人手過剰 |
| 04 売上・受注単価低下 | 13 利益率低下 |
| 05 原材料・仕入価格上昇 | 14 代金回収難 |
| 06 原材料・在庫不足 | 15 資金繰り難 |
| 07 原材料・在庫過剰 | 16 新分野進出 |
| 08 店舗・生産設備不足・老朽化 | 17 その他:具体的に |
| 09 店舗・生産設備過剰 | () |

回答欄

1位 _____

2位 _____

3位 _____

【質問3】人手不足や生産性向上への対応に関して、リスクリングや人材への投資が注目を浴びています。これに関連して、従業員教育について以下の質問にご回答ください。

1. 従業員(正社員他パート・アルバイト含む)に実施している研修・教育の内容について(複数回答可)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| ① () 通常業務の中での教育(OJT) / | ② () 外部主催のセミナーの受講 |
| ③ () 資格取得の奨励 / | ④ () 社内での研修の実施 |
| ⑤ () 従業員の自己啓発支援 / | ⑥ () 自治体の公共職業訓練 |
| ⑦ () 研修・教育は実施していない / | ⑧ () 従業員がいない |
| ⑨ () その他() | |

2. 【1で①~⑥、⑨と回答した方】従業員の研修・教育に関する課題について(複数回答可)

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| ① () 研修・教育を実施する時間がない / | ② () 研修・教育を担当する人材の不足 |
| ③ () 研修・教育の計画や方針がない / | ④ () 研修・教育に要する資金の不足 |
| ⑤ () 研修・教育を受ける社員の意識が低い / | ⑥ () 研修・教育の効果が感じられない |
| ⑦ () 管理職の育成能力や指導意識の不足 / | ⑧ () 課題は特にない |
| ⑨ () その他() | |

【質問4】現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望についてご記入ください。